

令和7年1月

教育委員会定例会議案等

新潟市教育委員会

令和 7 年 1 月教育委員会定例会議事日程

新潟市教育委員会

日 時	令和 7 年 1 月 2 9 日（水） 午前 1 0 時 0 0 分 開会
場 所	新潟市役所ふるまち庁舎 4 階 教育会議室 1
日 程	第 1 会議録署名委員の指名 第 2 付議事件 議案第 2 3 号 教職員の人事措置について・・・・・・・・・・当日配付 第 3 報告 ・全国学力・学習状況調査の結果を受けた 次年度の方向性について・・・・・・・・・・ 1 ・令和 7 年度当初予算について・・・・・・・・・・当日配付 第 4 次回日程 2 月定例会 令和 7 年 2 月 1 2 日（水）午前 1 0 時 3 0 分 第 5 閉会

報 告

全国学力・学習状況調査の結果を受けた次年度の方向性について ～令和 6 年度の全国学力・学習状況調査の分析と今年度の取組の考察を通して～

1 目的

政策指標等の達成に関連する児童生徒の実態や学校の取組状況を明らかにし、次年度の取組の検討・決定の参考とする。

2 分析の方法

(1) 政策指標等の達成に関連する児童生徒の実態について

- ① 令和 6 年度全国学力・学習状況調査における「児童生徒質問紙」及び「学校質問紙」、各教科の正答率等の中から、政策指標や「学校園教育の推進」に掲げる目標の達成に関連しそうな内容を洗い出す。
- ② 外部機関に依頼し、(1)の内容について、クロス集計^{注1)}を行った上で、可能な相関係数^{注2)}を算出する。

※注 1：集計方法の 1 つで、2 つ以上の質問項目の回答内容をかけ合わせ、回答者属性ごとの反応の違いをみることができる。

※注 2：2 種類のデータ間の関連性の強さを示す指標。

- ③ 相関の強弱を参考に、今年度の取組の中で政策指標等の達成に向けて成果を挙げている取組と改善が必要な取組を整理するとともに、新たな取組を検討する。

(2) 学校の取組状況について

- 学校ごとに全国学力・学習状況調査における国語と算数数学の正答率が過去年度と比較してどのくらい伸びたかを調べ、正答率の関係性を分析する。

3 分析の進捗状況

(1) 政策指標等の達成に関連する児童生徒の実態について

課内で検討し、政策指標や「学校園教育の推進」に掲げる目標の達成に対して、主に下の内容との関連についてクロス集計を行い、相関係数を算出した。

- ・児童生徒の教職員や地域社会・友人との関わりの充実度
- ・授業改善への取組状況（特に個別最適な学びと協働的な学びへの取組状況）
- ・総合的な学習の時間・学級活動・特別の教科道德の取組状況
- ・特別支援教育への取組状況

252 組の項目を抽出した結果、二重クロス集計で相関関係が見られた項目が、89 項目あった。

(2) 学校の取組状況について

各校の伸びの算出と平均正答率との関係を分析した。小学校については、各校の令和4年度の国語と算数の平均正答率を合算し、令和6年度のそれと比較して、学校別にどのくらい伸びたかを算出した。中学校については、各校の令和5年度の国語と数学の平均正答率を合算し、令和6年度のそれと比較して、学校別に伸びを算出した。その結果、伸びと平均正答率は一致しないことが分かった。

4 成果や改善点等の整理や検討

(1) 政策指標等の達成に関連する児童生徒の実態について

- ① 指標「自分にはよいところがあると思う」と回答する児童生徒の割合の向上のために、小中学校ともに教師が児童生徒のよいところを認めることとの関連が見られた。→別紙資料①－1 さらに、小中学校ともに個別最適な学びと協働的な学びの両方に取り組むこととの相関が見られた。→別紙資料①－2

また、「学校に行くのは楽しいと思いますか」「普段の生活の中で幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の二つの質問においては、小中ともに、最も関連があるのは「友人関係に満足していますか」という項目だった。こうした子どものウェルビーイング関連の主観的幸福感、教師の支援や友人関係など他者とのつながりが大きく関係している。教師は、今まで以上に児童生徒理解を深め、特に子どものよさに目を向けて信頼関係を結ぶことにより、全ての教育活動の基盤を固めることが大切になる。さらに、良好な友人関係のためには、児童生徒同士が互いに認め合い信頼関係を築く必要がある。発達支持的生徒指導を推進していく必要があると言える。

- ② 指標「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」の割合の向上のために、小中学校ともに、総合的な学習の時間や特別活動の充実が関連していた。→別紙資料②－1

取組状況を価値付けていくとともに、総合的な学習の時間や特別活動の好事例を発信して、充実を図りたい。

さらに、三重クロス集計の結果から、個別最適な学びの充実との相関が見られた。→別紙資料②－2

- ③ 指標「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の割合の向上については、「人が困っているときは、進んで助ける」こととの関連が見られた。

さらに、人が困ったときに進んで助けている児童生徒ほど、その学校の教師が特別支援教育を理解し、個別最適な学びに取り組んでいる傾向が見られた。全ての子どもたちが充実した時間を過ごすための特別支援教育の理解の促進とそれに基づくUDの視点を取り入れた授業、一人一人に寄り添う個別最適な学びの両方に取り組む必要があると言える。→別紙資料③

④ 指標「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」の割合の向上については、協働的な学びや、話し合いを通して自分たちの問題を自分たちで解決する経験と相関が見られた。また、総合的な学習の時間で探究のプロセスで学ぶこととの関連が見られたことから課題発見力や情報活用能力等の資質・能力の育ちが、指標の達成に関係すると言える。

⑤ 指標「コンピュータなどの ICT をどの程度使用したか」については、主体的・対話的で深い学びの実現と、そのような場面での活用が関連すると考えていたが、相関が見られなかった。日々の授業で、児童生徒が「分かる・できる」を実感するためには端末をどのように使うとよいのか、その活用方法について発信する必要がある。また、児童生徒が、自分の学び方に合わせて端末を含むいろいろな道具を自ら選択するという授業観を教職員に育てていきたい。そのためには、先進的な取組をしている学校の結果の姿だけではなく、取組の過程についても共有を図る。

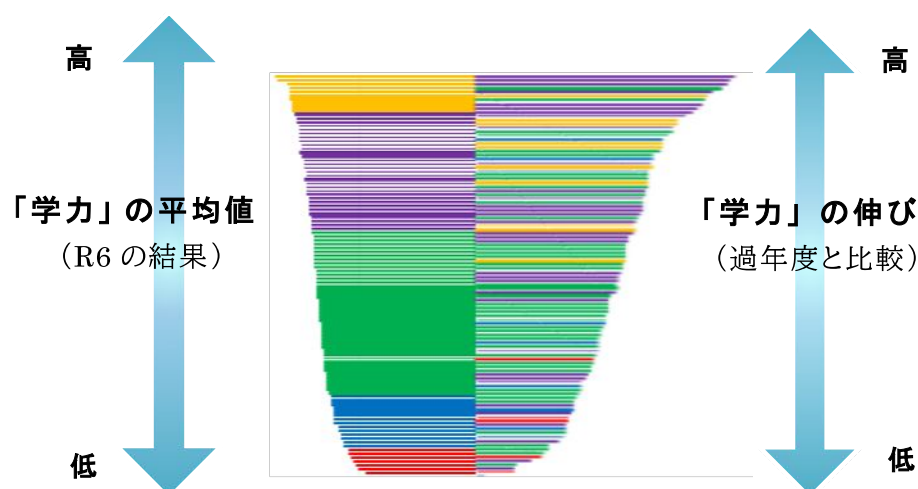
(2) 学校の取組状況について

○ 伸びの視点へのシフトについて

正答率と各校の伸びは一致しないことが分かった。(図1) 正答率の高低に関わらず、自校の正答率を伸ばし続けている学校が複数校ある。学校の置かれた状況や課題は様々である。今後は、一律に新潟市・県・全国の平均との比較からその差が大きいことのみを学校課題として対策を講じるのではなく、その学校が育てたい資質・能力に対して、過去と(去年)と今(今年)を比較する視点が必要である。児童生徒質問紙の分析についても、自校で育てたい資質・能力に関連する調査項目に注目して成長を見ることにより、自分の学校の子どもたちの資質・能力の向上にじっくりと向き合って考えてもらいたい。すでにこの視点で自校の教育目標を具現すべく重点化した資質・能力について分析している学校もある。好事例を発信するなどし、視点のシフトを進める。

「学力」平均値が高い学校 ≠ 「学力」を伸ばす学校
どの学校も、子ども一人ひとりの「学力」に応じて伸ばすことができる

図1



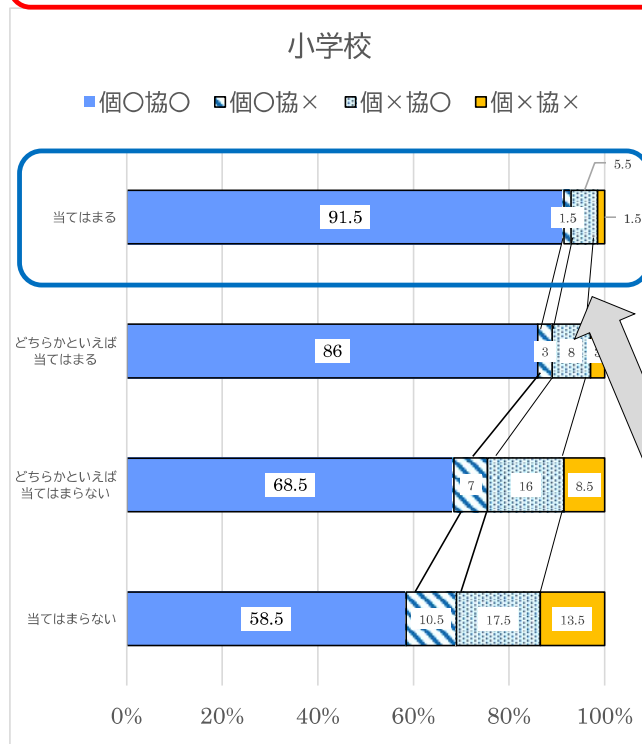
5 今後の予定

相関が見られた内容から、成果を挙げている取組を整理し、その充実の方向を定める。
来年度の取組を「授業づくりサポート Ver 1. 5」「学校園教育の推進」としてまとめ、学校園に周知する。

- (1) 多様な子どもたち一人一人の特性や学習の進度に応じた「個別最適な学び」と、子どもたち同士が互いのよい点や可能性を生かしながら一緒に学ぶ「協働的な学び」の一体的な充実について推進していく。特に、個別最適な学びについて好事例を紹介するなど、広報に努める。
- (2) 特別支援教育の理解と、多様な子どもたち一人一人の特性に応じた板書や説明の仕方などの指導の工夫についてUDの視点を取り入れた授業を推進していく。
- (3) 一人一人のよさに目を向けて児童生徒理解を行い、積極的にほめ、認めて信頼関係を築くことを推進していく。さらに教師の支援の下、子ども同士が互いに認め合い信頼関係を築く発達支援的生徒指導を推進していく。
- (4) 自立した学習者を育成していくために、総合的な学習の時間の充実を図る。
- (5) 各校が自校の伸びに注目し、他校、他区との比較、競争から、自分の学校の学力や学校課題解決のために必要な資質・能力を伸ばしていく視点にシフトする。

【グラフの見方】

三重クロス集計 「個別最適」×「協働的」×「自分にはよいところがあると思う」
自分にはよいところがあると思いますか〔9〕



多様な子どもたち一人一人の特性や学習の進度等に応じた「個別最適な学び」と、子どもたち同士が互いのよい点や可能性を生かしながら一緒に学ぶ「協働的な学び」の実施状況と「自分にはよいところがあると思う」の関係を三重クロス集計しました。

個別最適な学び・協働的な学びの両方に取り組んだグループ ■（個○協○）が「自分にはよいところがあると思う」と回答した割合が最も高かったことを表しています。

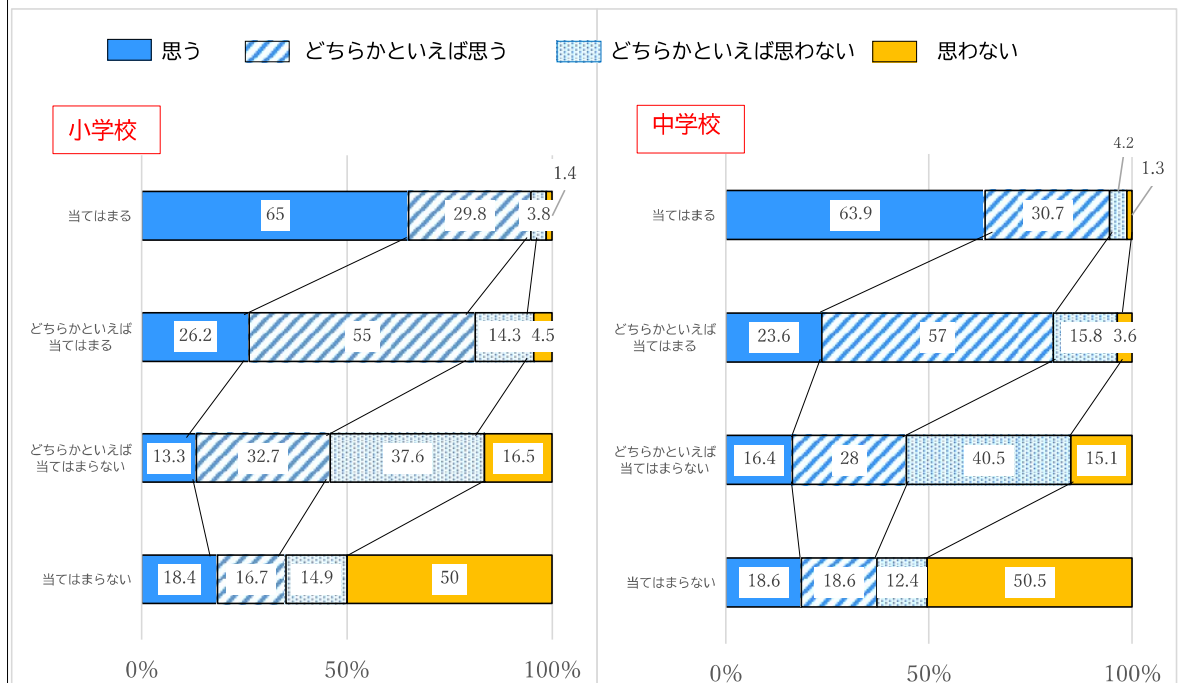
- 個○協○・・・個別最適な学び、協働的な学びの両方に取り組んだ
- 個○協×・・・個別最適な学びには取り組んだ、協働的な学びには取り組んでいない
- 個×協○・・・個別最適な学びには取り組んでいない、協働的な学びには取り組んだ
- 個×協×・・・個別最適な学び、協働的な学びのどちらにも取り組んでいない

クロス集計

〔自分にはよいところがあると思う〕×
〔先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う〕

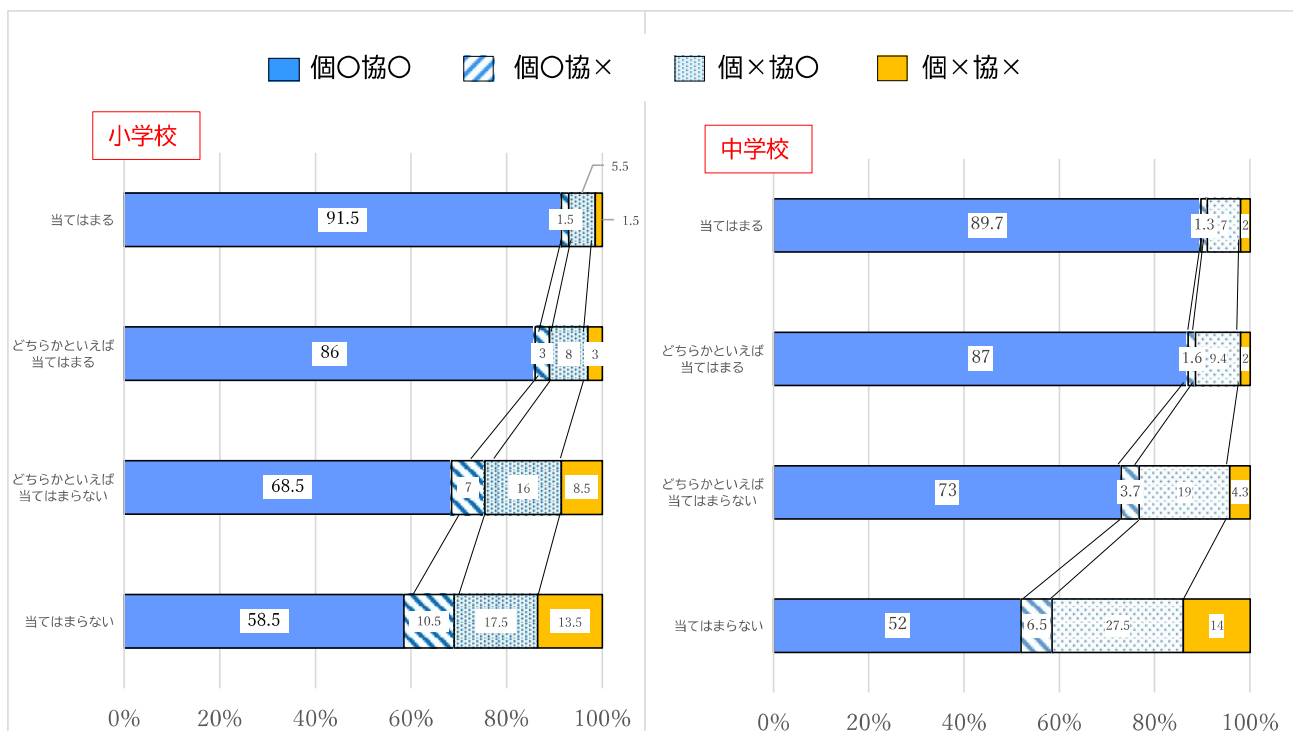
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。〔10〕

自分にはよいところがあると思う。〔9〕



三重クロス集計 〔個別最適〕×〔協働的〕×〔自分にはよいところがあると思う〕

自分にはよいところがあると思いますか〔9〕

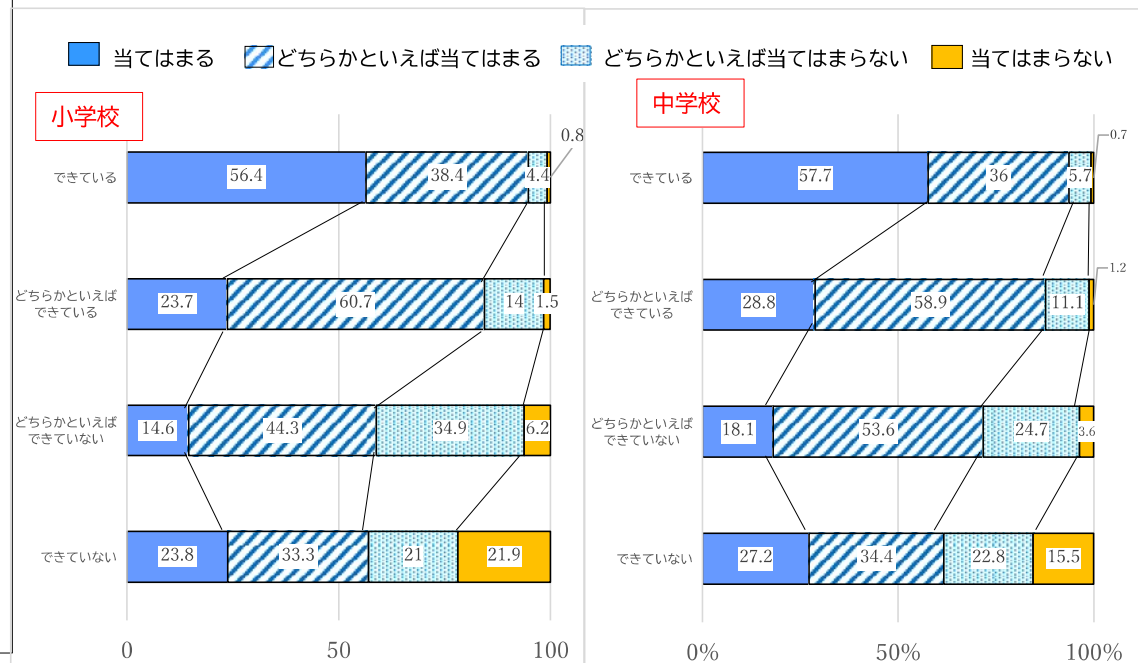


クロス集計

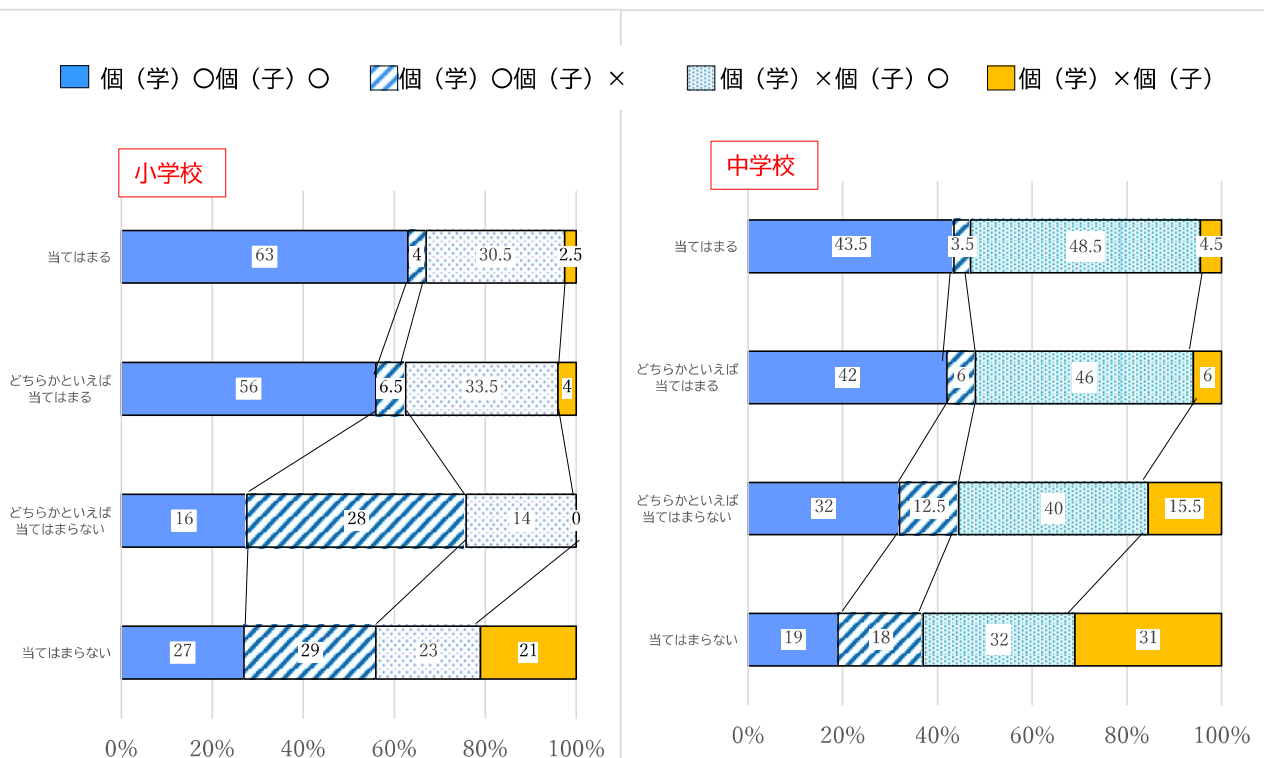
〔探究のプロセスでの総合的な学習の時間〕×
 〔分からないことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる〕

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集めて整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。〔38〕

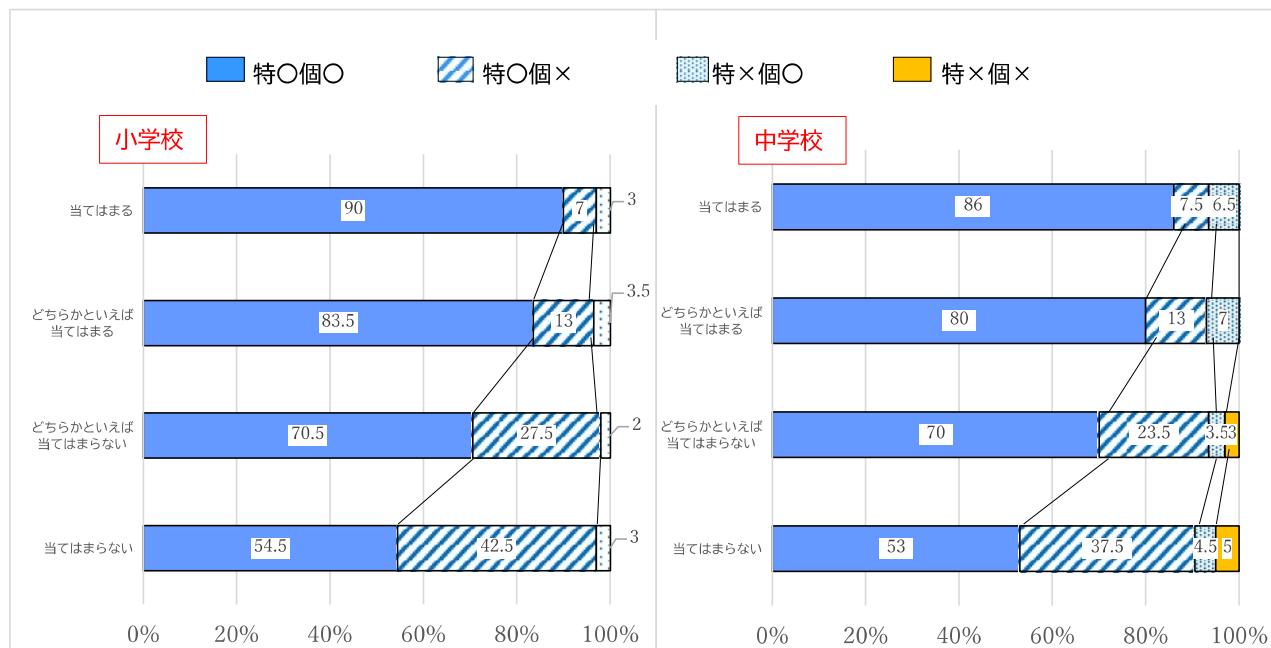
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができますか〔20〕



三重クロス集計 〔個別最適(学校)〕×〔個別最適(児童生徒)〕×〔自分で学び方を工夫できる〕
 分からないことがあったときに、自分で学び方を工夫することができる〔20〕



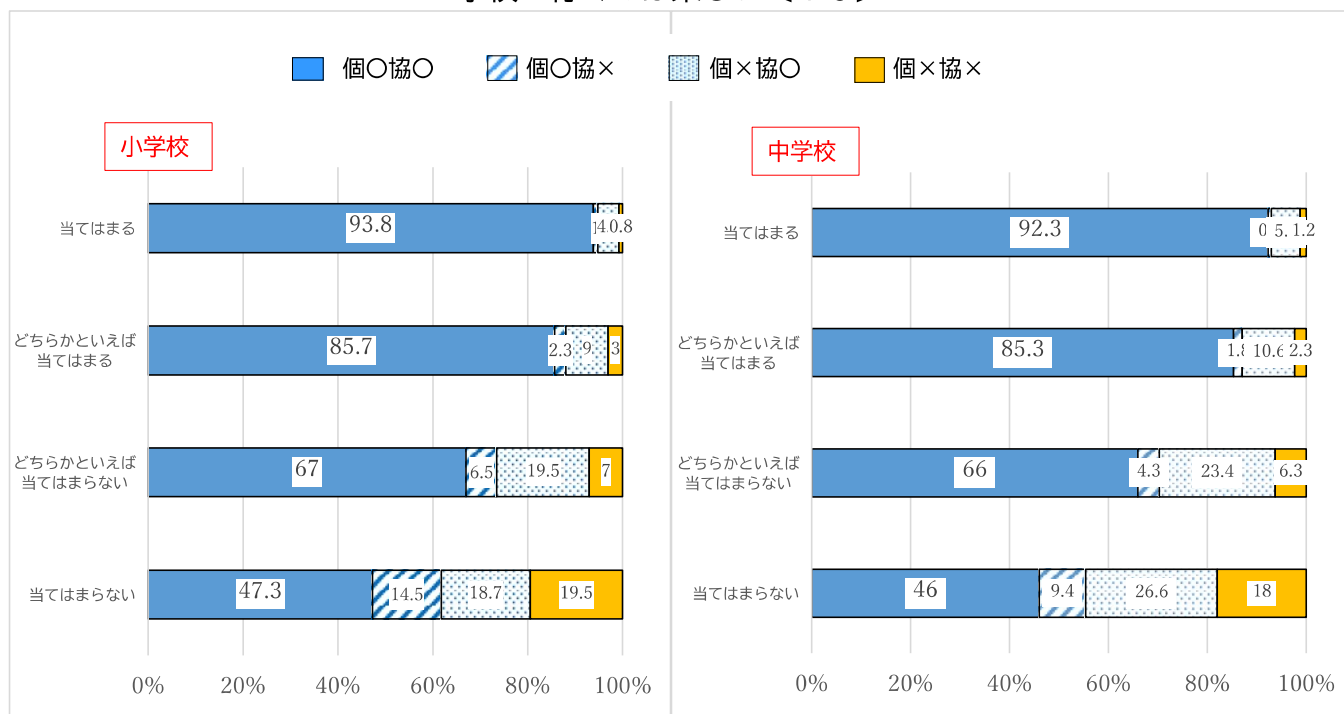
三重クロス集計〔特別支援教育〕×〔個別最適〕×〔困っている人を進んで助けています〕
人が困っているときは、進んで助けている〔１２〕



- 特○個○・・・特別支援教育、個別最適な学びの両方に取り組んだ
- 特○個×・・・特別支援教育には取り組んだ、個別最適な学びには取り組んでいない
- 特×個○・・・特別支援教育には取り組んでいない、個別最適な学びには取り組んだ
- 特×個×・・・特別支援教育にも個別最適な学びのどちらにも取り組んでいない

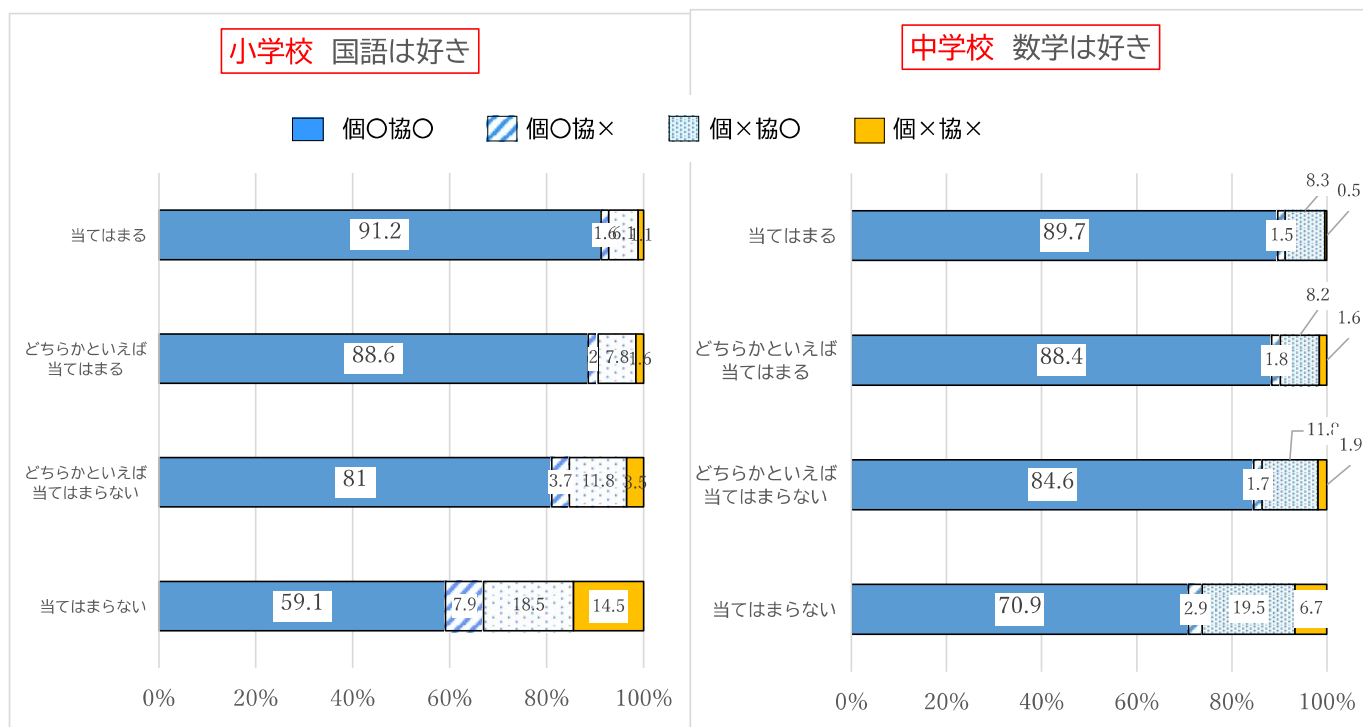
「学校へ行くのが楽しい」についても、「当てはまる」と回答した児童生徒は、個別最適な学び・協働的な学びの両方に取り組んでいる（個○協○）割合が最も高かった。

三重クロス集計〔個別最適〕×〔協働的〕×〔学校へ行くのは楽しい〕 学校へ行くのは楽しい〔16〕



「国語／算数数学の勉強が好き」についても、「当てはまる」と回答した児童生徒は、個別最適な学び・協働的な学びの両方に取り組んでいる（個○協○）割合が最も高かった。

三重クロス集計〔個別最適〕×〔協働的〕×〔国語の勉強が好き〕 国語／算数・数学の勉強は好きですか〔42・50〕



中学校国語も同様の傾向が見られた

小学校算数も同様の傾向が見られた